

古代の面師から戦国時代の刀工・現代の人間国宝まで

●日本美術史の工芸活動を担った美術家を網羅●

# 美術家人名事典 工芸篇

## —古今の名工2000人



日外アソシエーツ 編 A5・480頁 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2266-4 2010年7月刊行



著名な美術家だけでなく地域の名工まで  
工芸界の重要人物をこの一冊で把握できる



●古代から現代まで、日本の工芸活動を担った古今の美術家を五十音順に一覧できる初の事典です。

●陶芸、染織、漆芸、金工、木竹、人形、ガラス、和紙、七宝など作品分野が多岐にわたる2,000人を収録。各工芸家の生没年、出身地、肩書、学歴、経歴などのプロフィールがわかります。

●日本の美術工芸の重要人物をジャンルごとに把握できる「分野別索引」付き。

併せて利用すれば  
日本美術史上の登場人物を一望!

●飛鳥時代の画工から現代の画家・版画家まで

好評既刊

### 美術家人名事典

—古今・日本の物故画家3500人

A5・730頁 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2159-9 2009.2刊

#### ■収録分野と収録人物例■ \*は人間国宝

- 【陶芸】 北大路魯山人、酒井田柿右衛門(有田焼)、野々村仁清(京焼)、\*藤原雄(備前焼)、楽長次郎(楽焼)、和太守卓良…
- 【染織】 \*小川善三郎(献上博多織)、城間栄喜(紅型)、\*羽田登喜男(友禅)、\*松原定吉(長板中形)、山鹿清華(織物)、\*六谷梅軒(伊勢型紙錐彫)…
- 【漆芸】 赤塚自得(蒔絵)、\*磯井如真(蒔髹)、小川破笠(破笠細工)、片岡華江(蒔絵)、柴田是真(蒔絵・漆絵)…
- 【金工】 \*小野光敬(刀剣研磨)、香取秀真(鍍金)、景光(刀工)、\*関谷四郎(鍛金)、\*高橋貞次(日本刀)、\*増田三男(彫金)…
- 【木竹】 \*秋山逸生(木象嵌)、木内喜八(木工芸)、\*黒田辰秋(木工芸)、田辺竹雲斎(竹工芸)、八木沢啓造(竹工芸)、横山一夢(木工芸)…
- 【人形】 大西重太郎(伏見人形)、\*鹿兒島寿蔵(紙塑人形)、川崎プツベ(フランス人形)、小島与一(博多人形)、野口光彦(御所人形作家)、\*堀柳女(衣裳人形)…
- 【その他の工芸】 旭玉山(牙彫)、入江長八(鍍絵)、\*安部栄四郎(雁皮紙)、将李魚成(伎楽面)、並河靖之(七宝)、藤田喬平(ガラス)…  
…など2,000人

2014.2

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業本部

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845  
〒143-8550 東京都大田区大森北1-23-8 <http://www.nichigai.co.jp/>

注文書	■貴店名	美術家人名事典 工芸篇—古今の名工2000人 定価(本体14,200円+税) ISBN978-4-8169-2266-4	冊
			冊
	■お名前		

稲垣 稔次郎 いながき・としじろう  
染色家 京都市立美術大学教授

[生年月日] 明治35年(1902年)3月3日  
[没年月日] 昭和38年(1963年)6月10日  
[出生地] 京都府京都市下京区俵屋町 [學歷] 京都市立美術工芸学校(現・京都市立銅駝美術工芸高校) 図案科 [大正11年] 卒 [資格] 重要無形文化財保持者(型絵染) [昭和37年] [専門] 型絵染  
大正11年松坂屋京都支店の図案部に入り、型友禪の図案制作を約10年担当。昭和6年独立、創作活動を始め、15年国画会展に「西瓜の図」を出品し、国画奨学賞受賞。16年同会同人となった。同年より新文展に3度特選。21年第1回日展に特選。富本憲吉に認められ、富本をリーダーに22年新匠美術工芸会の設立に参加。23年から型染の作品を発表、31年から日本伝統工芸展に出品。32年日本工芸会正会員、33年同会理事。37年人間国宝(型絵染)に認定される。京都の風物を題材に、詩情豊かな図柄を型染で表現した。また物語や説話を題材とした「平家物語屏風」などの作品も残した。一方、京都市立美術大学教授として後輩の指導にも当たった。代表作に「結城紬地型絵染着物 竹林」「信州紬地型絵染着物 風」「和紙地糊絵染二曲屏風 牡丹図」「木綿地型絵染壁掛竹取物語」など。他に「壁掛・ソング・オブ・グリーン」「ねずみ草紙」などもある。  
[受賞] 国展国画奨学賞 [昭和15年] 「西瓜の図」、新文展特選 [昭和16年・18年・19年] 「善隣譜」「牡丹図」、日展特選 [昭和21年] 「松の図屏風」  
[墓所] 通妙寺(京都・鳥辺山)  
[家族] 父=稲垣竹埠(日本画家・工芸図案家)、兄=稲垣伸静(日本画家)

稲木 東千里 いなき・ひがしせんり  
木工芸家

[生年月日] 明治25年(1892年)2月22日  
[没年月日] 昭和54年(1979年)6月5日  
[出生地] 静岡県 [本名] 稲木千代作 [別名等] 旧号=春千里  
父に木工を習い、大正3年上京して星野克齋に師事。独立後日本美術協会賞を受賞、脚光を浴びた。正木直彦東京美術学校長の知遇を得て、14年美校聴講生となった。昭和3年昭和天皇即位大典に献上の桑材調度を制作。5年帝展初入選以来、帝展、新文展に、戦後も日展、日本伝統工芸展に出品。木材についての博識、江戸指物や唐木指物の伝統的な卓越した技術、秀逸な意匠など、江戸指物最後の名人といわれた。  
[受賞] 日本美術協会賞 [大正6年]、帝展入選 [昭和5年]、帝展特選 [昭和6年] 「鋸装筥」、帝展推奨 [昭和11年] 「細線文象嵌桑製箱」、キワニス文化賞 [昭和42年]

稲葉 七穂(2代目) いなば・しちほ  
七宝作家

[生年月日] 明治18年(1885年)  
[没年月日] 昭和51年(1976年)  
初代稲葉七穂が創業した錦雲軒稲葉を受け継ぐ。明治37年のセントルイス万博以降、6年間にわたって米国に滞在し、42年帰国。大正14年にはパリ万博に六角形宝石箱を出品してグランプリに輝き、受賞作はベルギー王室へ献上された。国際的な感覚を生かした作品を手がけ、七宝作家として知られた。

工芸家名  
肩書

生年月日  
出身地・學歷  
経歴  
受賞など

歴史に埋もれた地域の人物まで  
幅広く収録。

従来の工芸史を補完するツールとして  
ご利用ください。

井上 真改 いのうえ・しんかい  
刀工

[生年月日] 寛永8年(1631年)  
[没年月日] 天和2年(1682年)11月9日  
[出生地] 日向国飩肥(宮崎県) [別名等] 別名=国貞(2代目)、真改  
和泉守国貞の門に学び、のち養子となる。国貞の死後、承応2年(1653年)23歳で2代目を襲名。万治4年(1661年)朝廷から許され、莖(なかご)に十六葉の菊花文を刻む。寛文12年(1672年)井上真改と改名。新刀(慶長以降の刀剣)中の名工として名高く、沸(にえ)の深くついた大湾(のた)れの刃文を得意とした。大坂正宗と称賞され、津田越前守助広と名声をわけあった。

井上 儂智 いのうえ・せんち  
古代塗考案者

[生年月日] 生年不詳  
[没年月日] 明治1年(1868年)

奥州仙台藩主が駿河国蒲原宿(静岡県)を通過した時に随行していたが、発病して蒲原宿にそのまま住み着き、庶民に学問武芸を教えるようになる。特に漆塗りに巧みで、古代塗りを創案して地元職人にも技法を伝授。自身も“儂智山人”の銘で優れた作品を手掛けた。没後、明治30年頃から古代塗りは大量生産されて全国に広まり、米国にも輸出された。

今泉 今右衛門 (10代目) いまいづみ・いまえもん  
陶芸家

[生年月日] 嘉永1年(1848年)  
[没年月日] 昭和2年(1927年)9月27日  
[出生地] 肥前国(佐賀県) [本名] 今泉藤太 [専門] 色鍋島  
今泉家は赤絵業者で藩主鍋島家の赤絵御用もつとめてきた。10代目藤太は稲富武平の二男で、今泉家の養子となり明治初期にドイツ人のワグネルや陶画家の服部杏圃に学ぶ。更に本窯を築き、もっぱら古陶を模造。色鍋島の製作に長じた。